

第39期 決算説明資料

自 平成16年4月 1日
至 平成17年3月 31日

【会社名】 株式会社エノモト

【英訳名】 ENOMOTO Co.,Ltd.

【コード番号】 6928

【URL】 <http://www.enomoto.co.jp/>

【代表者】 代表取締役社長 榎本 保雄

【問合せ先】 取締役経理部長 山崎 宏行

【E-Mail】 ir@enomoto.co.jp

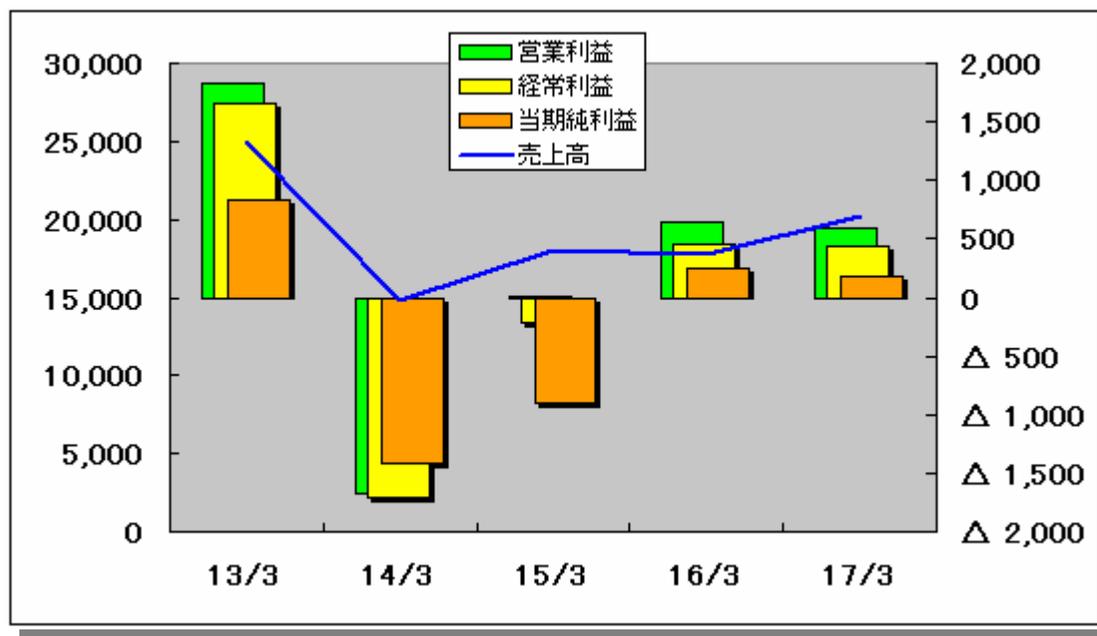
【本社所在地】 山梨県上野原市上野原 8154 - 19

【電話番号】 0554(62)5111(代表)



当期のご報告

連結業績の推移



百万円

	13/ 3	14/ 3	15/ 3	16/ 3	17/ 3	前期比
売上高	25,014	14,828	18,009	17,821	20,176	13.2%増
営業利益	1,822	1,670	1	652	600	8.0%減
営業利益率	7.3%	11.3%	0.0%	3.6%	3.0%	0.6P減
経常利益	1,651	1,702	212	450	442	1.9%減
経常利益率	6.6%	11.5%	1.2%	2.5%	2.2%	0.3P減
当期純利益	836	1,418	907	255	182	28.5%減
当期純利益率	3.3%	9.6%	5.0%	1.4%	0.9%	0.5P減

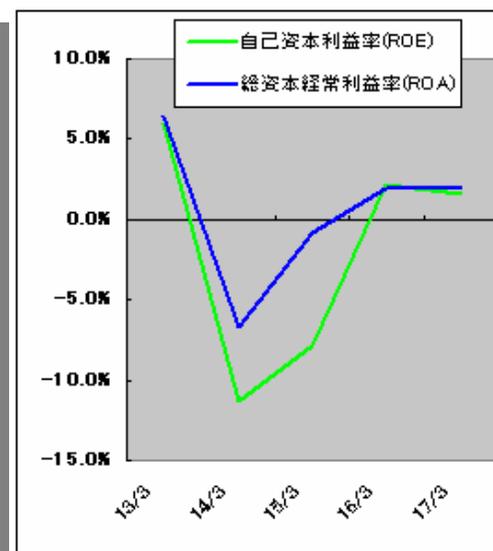
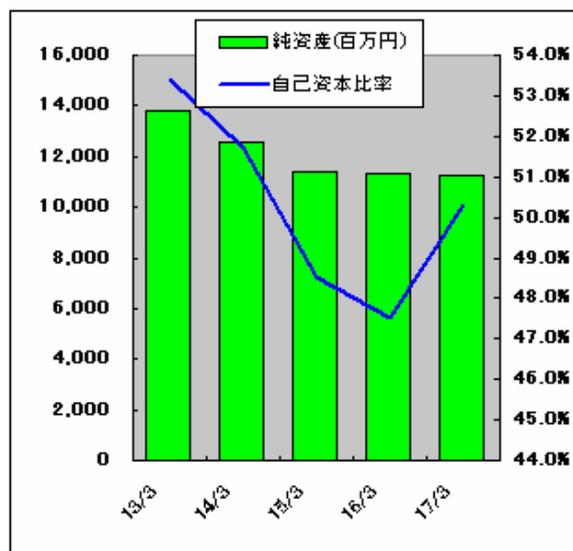
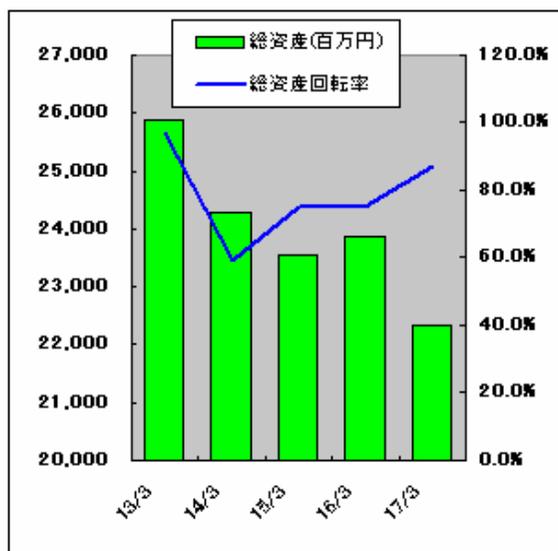
当連結会計年度の前半におきましては、世界経済は米国及び中国が好調な成長を続け、その影響を受けアジア経済も順調に拡大するとともに、欧州経済も成長を維持いたしました。それに伴い国内経済におきましても、米国や中国向けの輸出増加を背景に、企業収益の改善、設備投資の増加など回復傾向が見られましたが、後半に入り、米国およびEU地域の景気に減速感がみられ、外需の増加テンポの鈍化傾向が明らかになりました。

また、前期後半からの銅等の原材料価格の高騰、期初からの原油価格の高騰が続き、競争激化の中、後半の生産調整局面と重なり、製品価格が下落する等、厳しい経営環境の中で推移いたしました。

当社グループの属する電子部品業界におきましても、前半はパソコン・デジタル家電・自動車等の米国や中国向けの輸出が堅調に推移し、回復傾向が見られ、好調に推移いたしました。後半より中国における携帯電話在庫の積みあがりや、期初の需要見通しが外れたデジタル家電を中心に生産調整局面となり低調なまま推移いたしました。

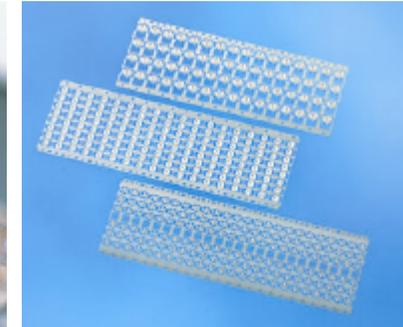
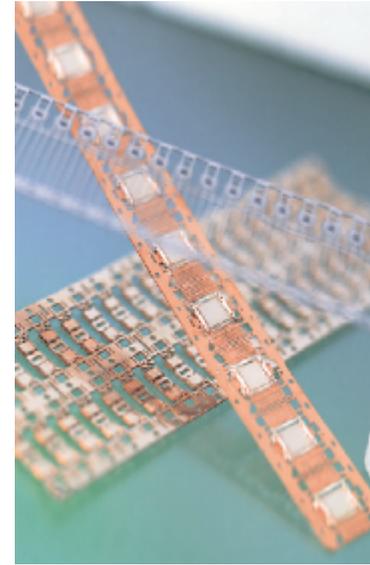
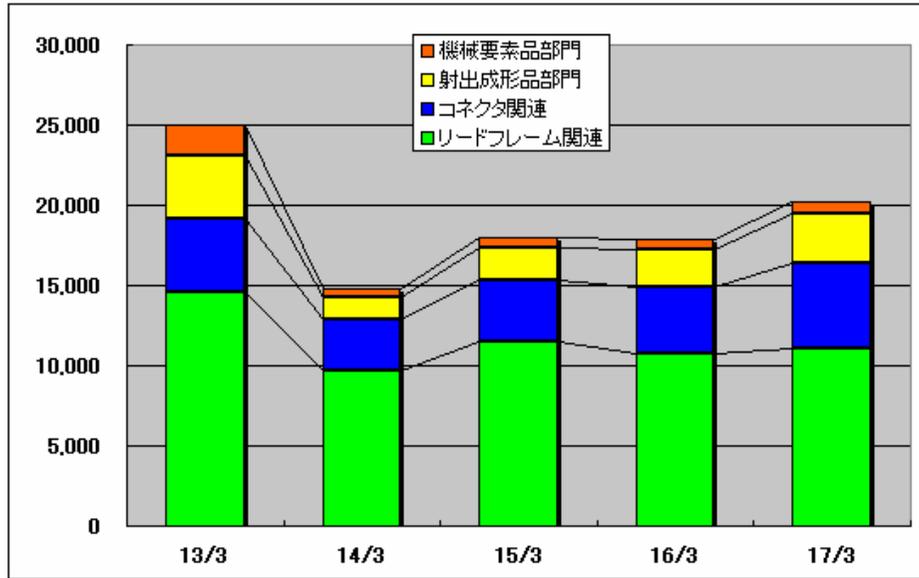
このような状況下、当社グループは、製造コストの低減に努めるとともに、需要の拡大が続くフィリピン・中国の生産拠点の生産体制の充実に努めて参りました。

その結果、当連結会計年度の売上高は201億7千6百万円(前連結会計年度比13.2%増)、経常利益4億4千2百万円(同1.9%減)、当期純利益1億8千2百万円(同28.5%減)となりました。



	13/ 3	14/ 3	15/ 3	16/ 3	17/ 3
総資産 (百万円)	25,889	24,272	23,541	23,875	22,340
総資産回転率	97.0%	59.1%	75.3%	75.2%	87.3%
純資産 (百万円)	13,815	12,546	11,408	11,332	11,226
自己資本比率	53.4%	51.7%	48.5%	47.5%	50.3%
自己資本利益率 (ROE)	6.0%	11.3%	7.9%	2.2%	1.6%
総資本経常利益率 (ROA)	6.4%	6.8%	0.9%	1.9%	1.9%

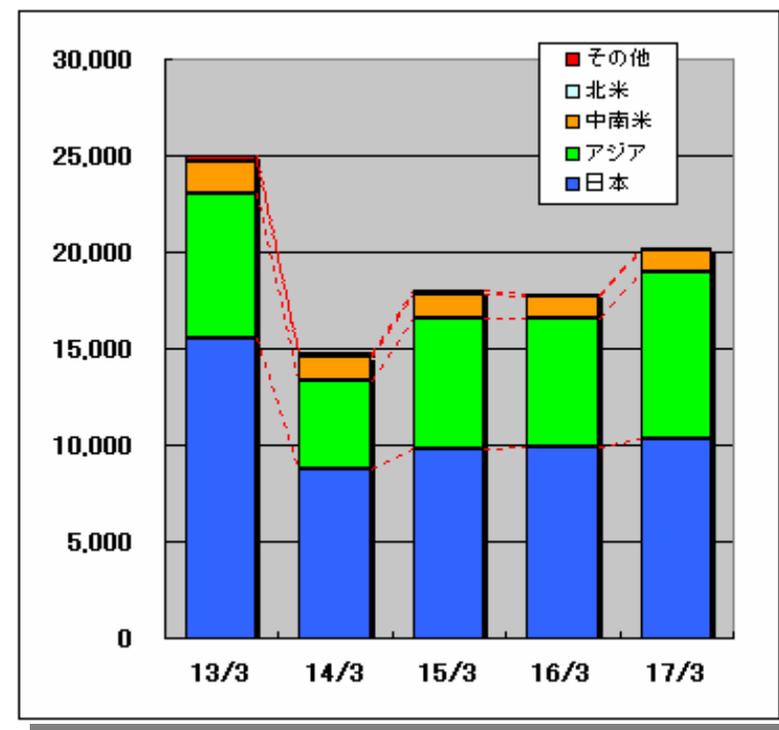
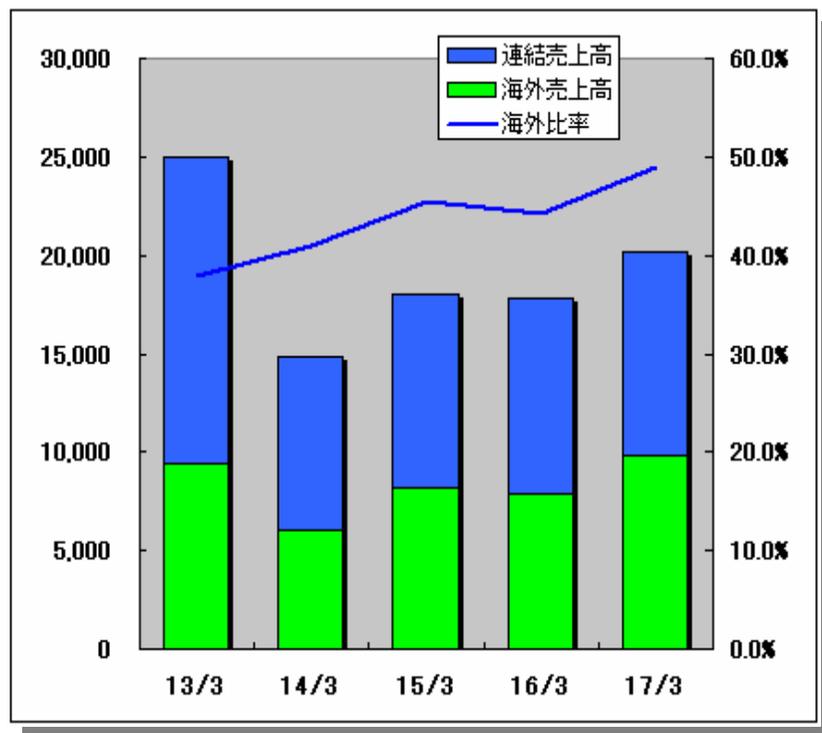
部門別売上高



百万円

		13/ 3	14/ 3	15/ 3	16/ 3	17/ 3	前期比
金属プレス品 部 門	リードフレーム関連	14,530	9,730	11,472	10,752	11,029	2.6%増
	コネクタ関連	4,660	3,125	3,887	4,098	5,325	29.9%増
	計	19,191	12,856	15,360	14,850	16,354	10.1%増
射出成形品部門		3,914	1,381	1,961	2,361	3,120	32.1%増
機械要素品部門		1,908	590	687	609	700	15.0%増
合 計		25,014	14,828	18,009	17,821	20,176	13.2%増

地域別売上高



百万円

	13/ 3	14/ 3	15/ 3	16/ 3	17/ 3
連結売上高	25,014	14,828	18,009	17,821	20,176
海外売上高	9,456	6,078	8,202	7,900	9,868
海外比率	37.8%	40.9%	45.5%	44.3%	48.9%

	13/ 3	14/ 3	15/ 3	16/ 3	17/ 3
日本	15,558	8,750	9,806	9,921	10,307
アジア	7,500	4,617	6,712	6,591	8,687
中南米	1,597	1,260	1,310	1,196	1,128
北米	78	14	36	37	20
その他	279	185	143	74	32

金属プレス品部門

当部門は、半導体用リードフレーム及びコネクタ用部品が主なものであります。デジタル家電、携帯電話向け需要は増加基調であります。価格競争の激化により、厳しい状況下での推移となりました。この結果、半導体用リードフレームの売上高は、原材料価格の上昇分を販売価格へ転嫁可能な製品が一部存在したことにより、出荷数量は伸び悩みましたが、110億2千9百万円(前連結会計年度比2.5%増)となりました。また、コネクタ用部品の売上高につきましては、積極的にシェアの拡大に努めたことにより、53億2千5百万円(同29.9%増)となりました。よって当部門の売上高は合計で163億5千4百万円(同10.1%増)となりました。

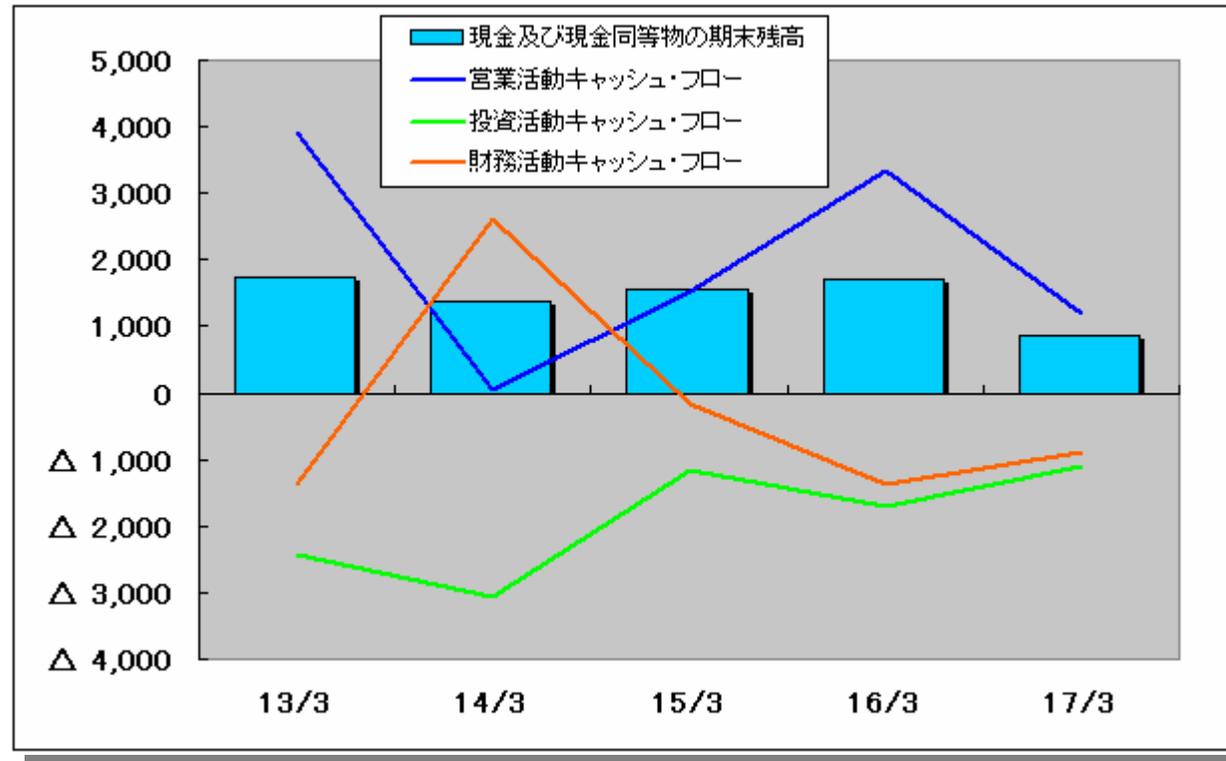
射出成形品部門

当部門は、リレー用部品及びLED用部品が主なものであります。通信機器関連の需要は期後半より減速し、リレー用部品は低調なまま推移しましたが、LED用部品については車載用の表面実装タイプの需要が旺盛に推移いたしました。その結果、売上高は31億2千万円(同32.1%増)となりました。

機械要素品部門

当部門は、当社の開発品であるガイドマックスが主なものであります。上半期は半導体製造装置向けの需要の回復により、堅調に回復いたしました。下半期に入り設備投資需要の減速の影響から受注の伸びは鈍化いたしました。その結果、売上高は7億円(同14.9%増)となりました。

キャッシュ・フロー



百万円

	13/ 3	14/ 3	15/ 3	16/ 3	17/ 3	前期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,923	53	1,516	3,325	1,207	2,118
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,423	3,075	1,157	1,705	1,114	590
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,365	2,609	150	1,374	899	475
現金及び現金同等物の期末残高	1,739	1,378	1,568	1,720	872	847

当連結会計年度における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ8億4千7百万円減少し、当連結会計年度末には8億7千2百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は12億7百万円（前年同期比63.7%減）となりました。これは税金等調整前当期純利益3億6千1百万円及び減価償却費16億3千6百万円の計上がありました。材料の高騰によりたな卸資産の増加1億9千2百万円並びに仕入債務の減少6億1千7百万円によるものです。

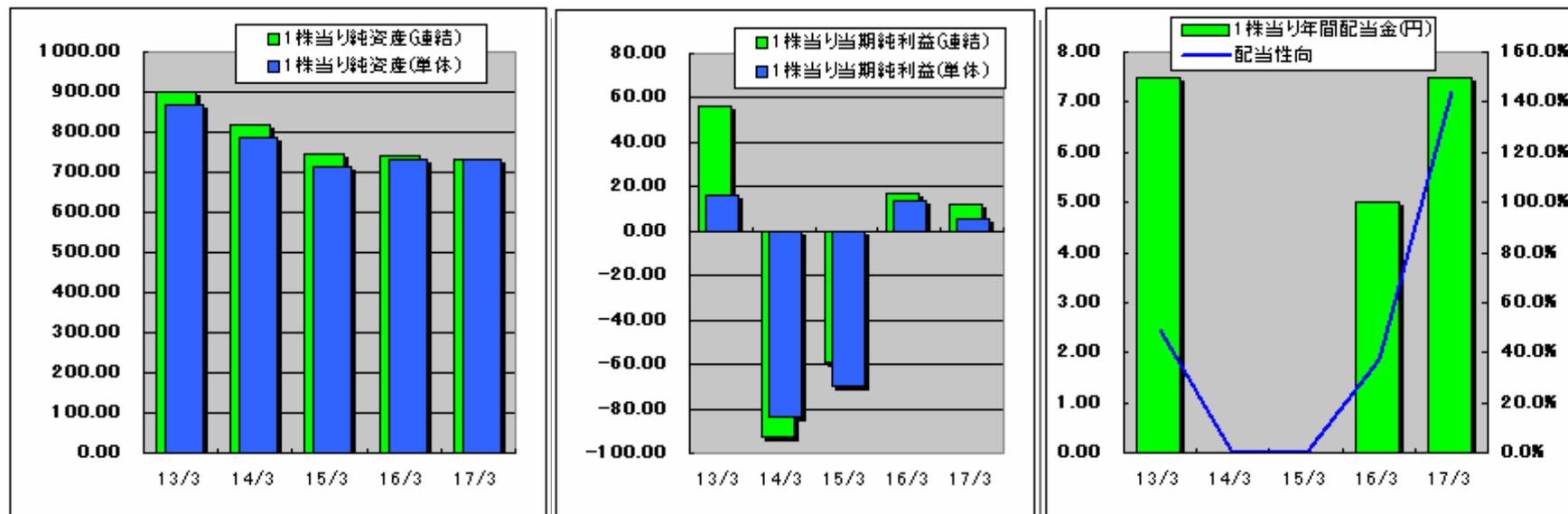
投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は11億1千4百万円（同34.6%減）となりました。これは主に固定資産の取得によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は8億9千9百万円（同34.5%減）となりました。これは主に短期借入金の純減少額3億4千9百万円及び長期借入金の純減少額3億5千7百万円によるものであります。

1株当り指数



	13/ 3	14/ 3	15/ 3	16/ 3	17/ 3
1株当り純資産 (連結)	900.12	817.53	743.45	738.68	731.81
1株当り純資産 (単体)	868.56	784.18	714.32	733.43	732.77
1株当り当期純利益 (連結)	56.65	92.40	59.15	16.65	11.92
1株当り当期純利益 (単体)	15.94	83.31	69.84	13.54	5.20

単体

1株当り年間配当金 (円)	7.50	0.00	0.00	5.00	7.50
配当性向	48.8%	0.0%	0.0%	36.9%	143.7%

利益配分に関する基本方針

当社は、株主に対する利益還元を経営の最重要政策と位置づけており、電子部品業界における技術革新に対応するためタイムリーな製品開発に努め、国内はもとより海外生産拠点を拡充することにより、経営基盤の強化を図るとともに配当につきましても安定した配当の継続を重視し、業績に裏付けられた成果の配分を行うことを基本方針としております。

この基本方針に基づき、普通配当 4円とし、先の中間配当金と合わせて、年 7円 50銭とさせていただきます。存じます。

次期の見通し

今後の見通しといたしましては、米国経済は設備投資の一巡や原油価格の高騰により、緩やかな減速基調に入るものと予測されます。アジア経済におきましては、米国の減速の影響を受け若干成長率の鈍化が予想されますが、依然として高成長が見込まれる中国経済の内需に支えられ比較的堅調に推移するものと思われます。総じて景気は減速するものの急速に大幅に落ち込む可能性は低いものと予想されます。

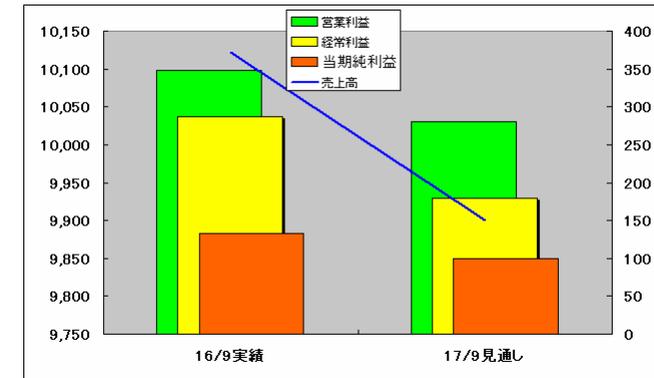
当社グループの属する電子部品業界におきましては、海外生産の進展および価格競争の激化が予想されますが、コンピュータ 携帯電話向け需要にデジタル家電、自動車向け需要が加わり市場全体としては拡大基調にあるものと思われます。

成長を続ける電子部品業界ではありますが、競争は一層熾烈になってきております。このような環境下、営業力 技術力の強化を図ると共に、グループ内のコミュニケーション能力の向上、意識改革を進め、将来にわたって持続的に成長できるグループ作りのため、経営の質的向上を図って参る所存であります。

中間期

百万円

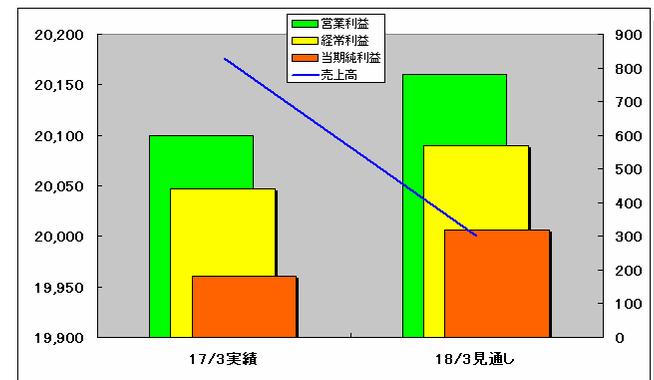
	16/9実績	17/9見通し	前期比
売上高	10,122	9,900	2.2%減
営業利益	348	280	19.7%減
営業利益率	3.4%	2.8%	0.6P減
経常利益	287	180	37.5%減
経常利益率	2.8%	1.8%	1.0P減
当期純利益	133	100	25.0%減
当期純利益率	1.3%	1.0%	0.3P減



通期

百万円

	17/3実績	18/3見通し	前期比
売上高	20,176	20,000	0.9%減
営業利益	600	780	29.9%増
営業利益率	3.0%	3.9%	0.9P増
経常利益	442	570	28.9%増
経常利益率	2.2%	2.9%	0.7P増
当期純利益	182	320	75.0%増
当期純利益率	0.9%	1.6%	0.7P増



次期の業績予想につきましては、

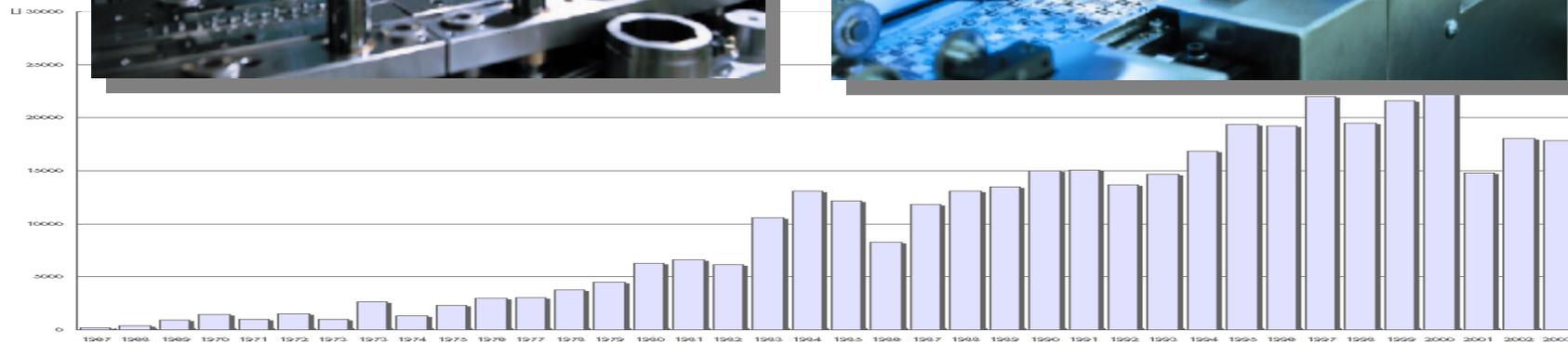
中間期におきましては、売上高 99 億円 (前期比 2.2% 減)、経常利益 1 億 8 千万円 (同 37.5% 減)、中間純利益 1 億円 (同 25.0% 減)を見込んでおります。

また、通期におきましては、売上高 200 億円 (前期比 0.9% 減)、経常利益 5 億 7 千万円 (同 28.9% 増)、当期純利益 3 億 2 千万円 (同 75.0% 増)を見込んでおります。

これは、今上期におきましては、半導体用リードフレームにおける一部の低付加価値品の撤退とコネクタ用部品における高付加価値品への参入の転換期間であり、下期より利益面に貢献することを見込んでおります。よって通期におきまして、前期に比べ減収にはなりますが、利益面におきましては増益となる計画を立てております。

経営戦略

当社グループは市場と顧客の情報を迅速かつ的確に把握し、顧客ニーズに対し付加価値の高い製品や情報の提供に努め、相互に利益を享受することを通じて、信頼関係を深め、将来にわたり安定的な成長と収益基盤の確立を目指しております。



グローバル供給体制の確立

近年、電子部品業界は製品の適地生産・適地供給が強く求められており、そのニーズに対応するため、品質やサービスのレベルを向上させながら、調達・生産・販売の最適化を図るべく、グループ全体での分業供給体制の強化を進めて参ります。

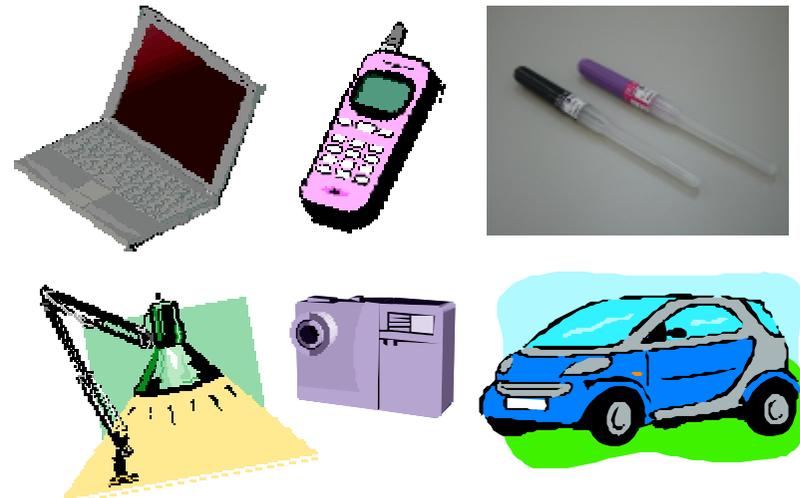


事業基盤の確立

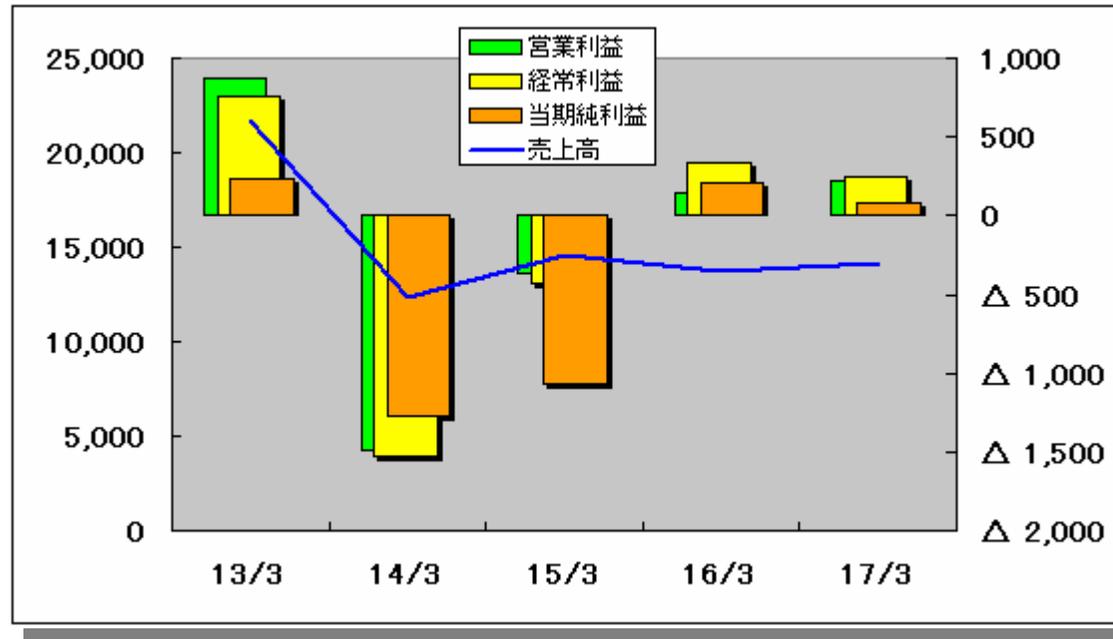
国際競争が激化に伴い製品価格の低下が続く中、当社は高付加価値品への転換を図るべく、営業力、技術力の強化を図って参ります。

現在、培ってきた微細加工技術・インサートモールド技術を基に、次世代の光源として注目をあびているLED、電子機器の小型化に伴い需要の高まっている狭ピッチコネクタへの積極的展開を進めております。

また、新規分野として、医療関連製品への取り組みも進めており、今後拡大を図って参ります。



補足資料



百万円

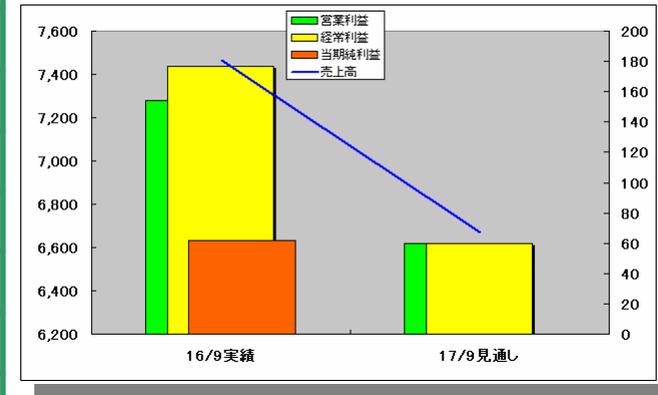
	13/ 3	14/ 3	15/ 3	16/ 3	17/ 3	前期比
売上高	21,673	12,371	14,584	13,701	14,152	3.3%増
営業利益	878	1,485	360	148	218	46.4%増
営業利益率	4.1%	12.0%	2.5%	1.1%	1.5%	0.4P増
経常利益	755	1,524	433	339	244	28.2%減
経常利益率	3.5%	12.3%	3.0%	2.5%	1.7%	0.8P減
当期純利益	235	1,278	1,071	207	80	61.5%減
当期純利益率	1.1%	10.3%	7.3%	1.5%	0.6%	0.9P減

単体の業績予想

中間期

百万円

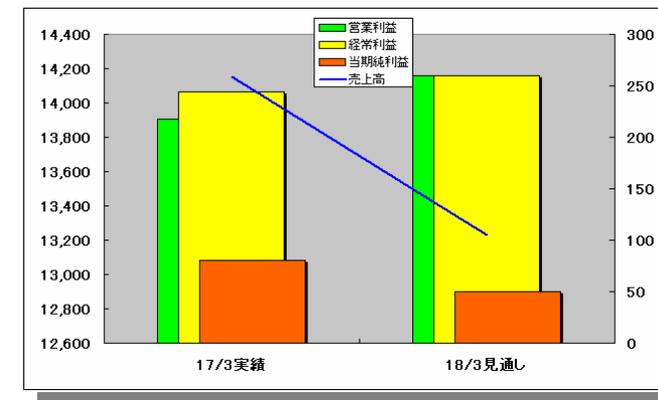
	16/ 9実績	17/ 9見通し	前期比
売上高	7,467	6,670	10.7%減
営業利益	154	60	61.1%減
営業利益率	2.1%	0.9%	1.2P減
経常利益	177	60	66.2%減
経常利益率	2.4%	0.9%	1.5P減
当期純利益	62	0	100.0減
当期純利益率	0.8%	0.0%	0.8%減

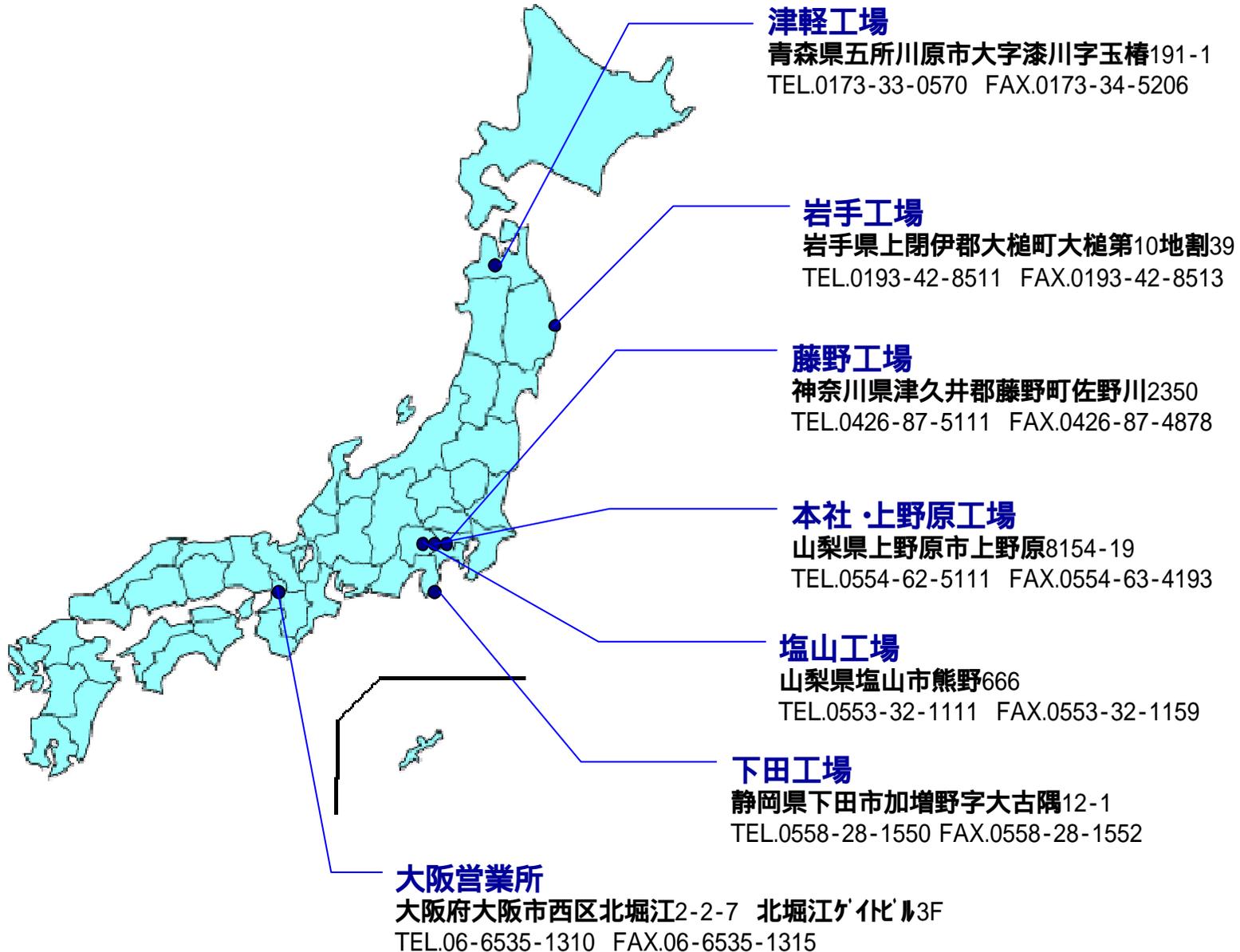


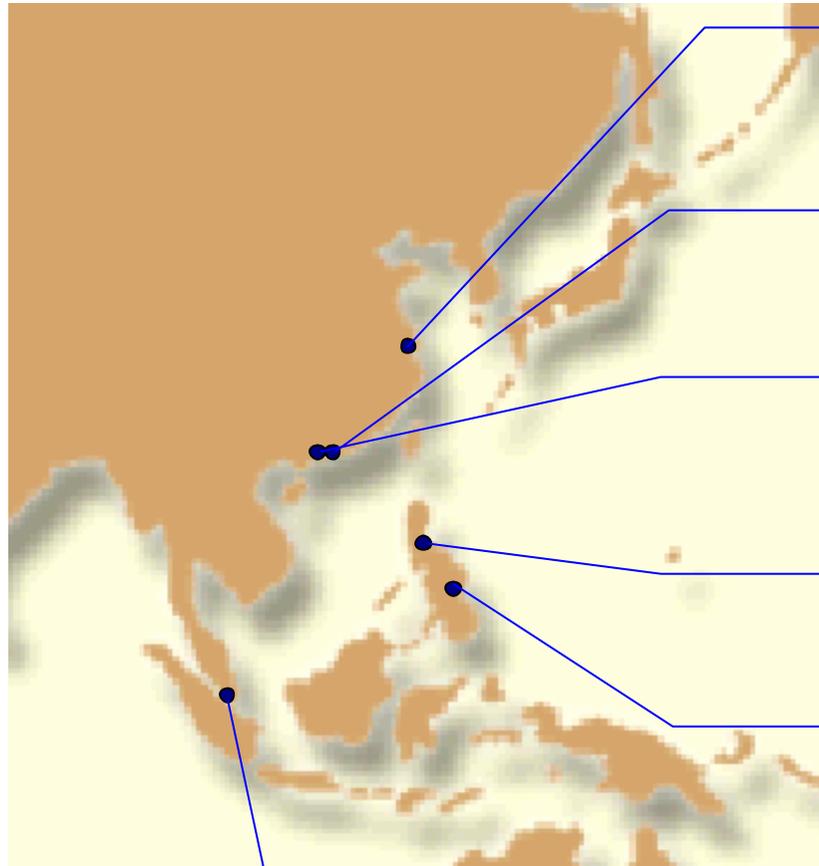
通期

百万円

	17/ 3実績	18/ 3見通し	前期比
売上高	14,152	13,230	6.5%減
営業利益	218	260	19.2%増
営業利益率	1.5%	1.9%	0.4P増
経常利益	244	260	6.5%増
経常利益率	1.7%	1.9%	0.2P増
当期純利益	80	50	37.5%減
当期純利益率	0.6%	0.4%	0.2P減







ENOMOTO WUXI Co.,Ltd.

江蘇省無錫市無錫国家高新技术産業開發区96号-C
TEL.+86-510-5345222 FAX.+86-510-5344008

ENOMOTO HONG KONG Co.,Ltd

香港九龍梳士巴利道3号星光行1820室
TEL.+852-2199-7848 FAX.+852-2199-7918

ZHONGSHAN ENOMOTO Co.,Ltd.

広東省中山市火炬開發区逸仙工業区
TEL.+86-760-533-5111 FAX.+86-760-533-5113

ENOMOTO PHILIPPINE MANUFACTURING Inc.

PEZA-Gateway Business Park Javalera Gen.Cavite Philippine.
TEL.+63-46-433-0263 FAX.+63-46-433-0264

**ENOMOTO PHILIPPINE MANUFACTURING INC.
CEBU OPERATIONS**

Cebu Light Industrial Park, Special Economic Zone, Washington
Road, Basak, Lapu-Lapu City, Cebu, Philippines 6015
TEL.+63-32-341-2223 FAX.+63-32-341-2228

ENOMOTO PRECISION ENGINEERING(S)Pte.Ltd.

30Loyang Drive,Singapore 508945
TEL.+65-6542-4542 FAX.+65-6542-2484

注意事項

事業の展望、業績予想等の将来の動向にかかる記載につきましては、歴史的事実ではないため、不確定な要素を含んでおります。

現在入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想と異なる結果となる可能性があることをご了承願います。